

# 6. 本特許導入による効果

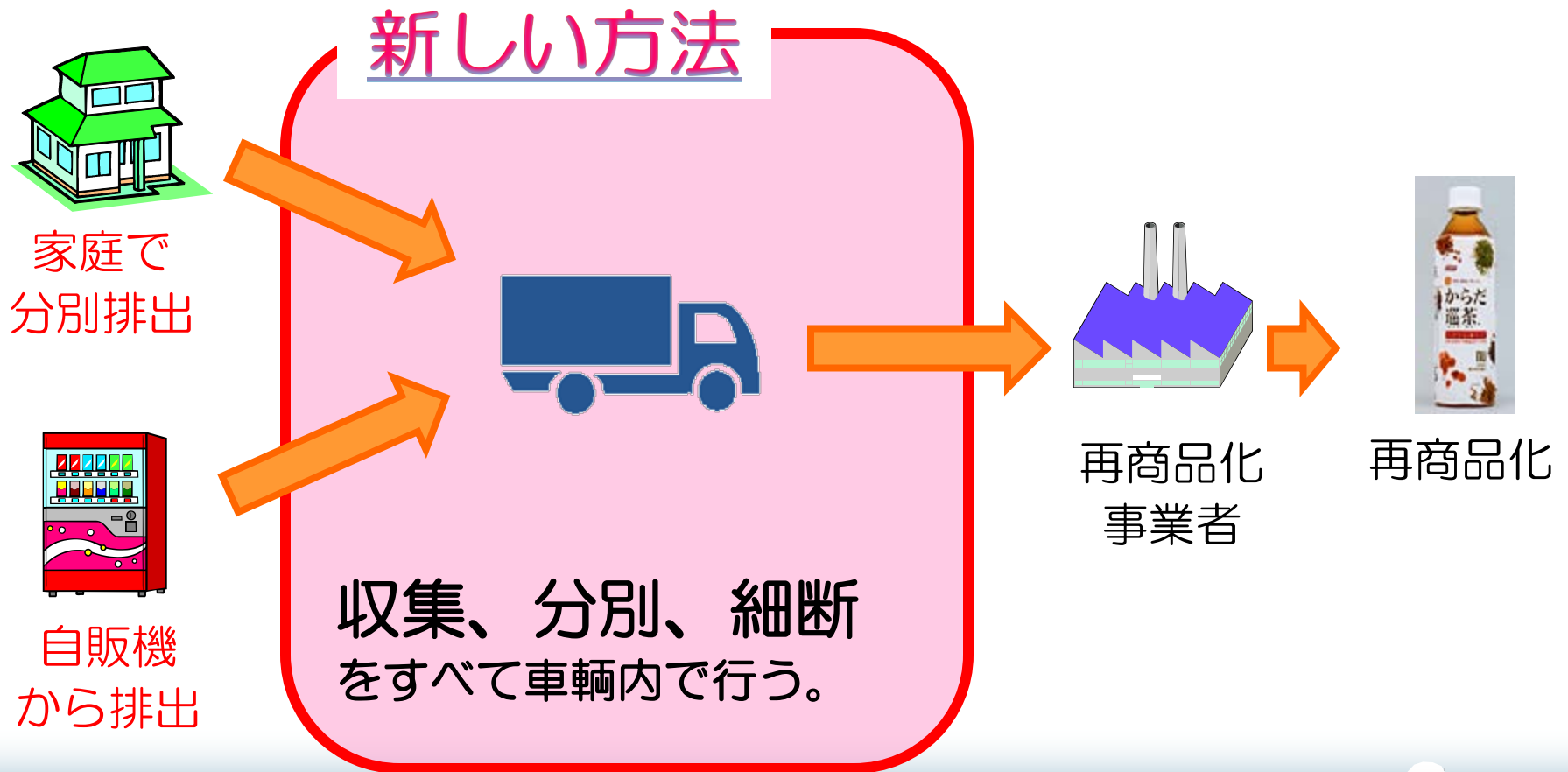
6-1 新しいリサイクルの流れ P21

6-2 本特許による問題解決 P22

6-3 日本の原油輸入先・ルート P23

6-4 市場規模 P24

# 6-1 新しいリサイクルの流れ



## 6-2 本特許による問題解決



### ① 回収車輦上での一括処理（動く工場）

- キャップ、ラベルの自動分離
- 車上でのボトル本体のチップ化
- 残留飲料の同時回収

### ② 車輦台数の削減

- 1台あたりの運搬量が増える

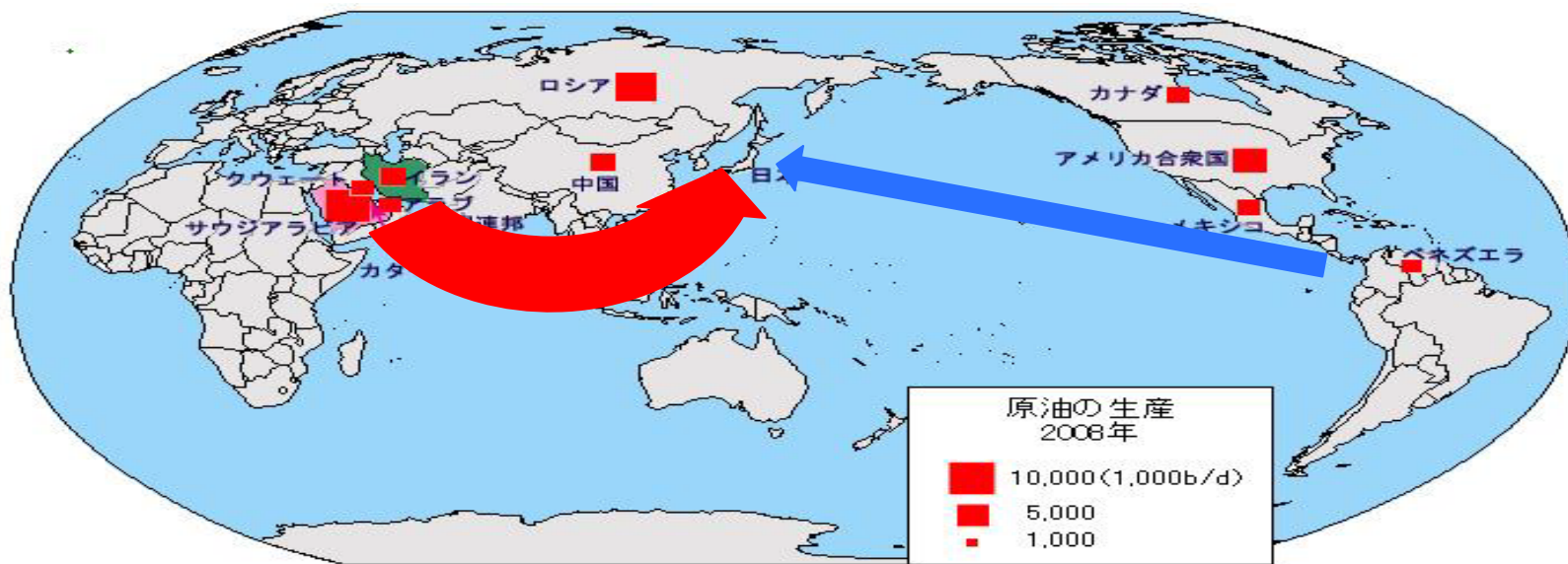
### ③ 中間処理工場、保管場所が不要

### ④ CO<sub>2</sub>の削減

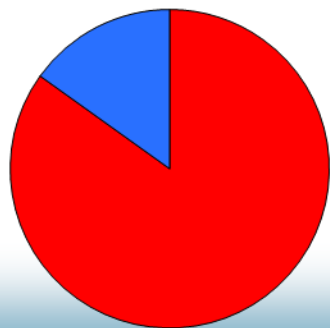
- 空母方式による回収車移動距離の短縮

### ⑤ トータルコストダウンの実現

# 6-3 日本の原油輸入先・ルート



原油及び粗油の輸入量



帝国書院ホームページ

統計地図より

## 6-4 市場規模

1) ペットボトル回収量を年間**40億本**とする。(約25%)

2) 年間1台の回収車の処理量は

$$6\text{時間/日} \times 540\text{本/時} \times 270\text{日/年} = \underline{874,800\text{本/台}\cdot\text{年}}$$

3) 回収車の必要台数は $\div$  **4,570台**

$$40\text{億本/年} \div 874,800\text{本/台}\cdot\text{年} \div 4,570\text{台}$$

4) 上記は、回収業者、地域、回収方法、頻度等により

数値が異なる。